

# 田川伊田駅 新駅舎

リノベーション第一人者の田村氏が設計  
駅舎まるごと交流と旅を愉しむ空間に



JR九州の日田彦山線と、平成筑豊鉄道の伊田線、田川線の3路線が乗り入れている「田川伊田駅」が新しくなった。元々は、1990年に完成した3階建て鉄骨造の洋風建築のJR九州初の直営駅ビルだったが、2010年度に田川市が「田川伊田駅周辺地区都市再生整備事業」の一環として、JR九州から駅ビルを購入した。田川市は、街づくりの拠点として再整備する計画を進行しており、2016年度から、エレベーターの設置や老朽化した屋根・外壁改修などの設計・工事を行い、併せて駅前広場や周辺道路の整備を行っていく。

●所在地 / 福岡県田川市伊田町2621-1  
●駅舎運営 / まちづくり会社 デザインステーション



水戸岡鋭治氏によりデザインされた平成筑豊鉄道のレスタラン列車「ことと列車 (COTO COTO TRAIN)」:2019年3月21日(木)~9月29日(日)の土日祝日、1日1便を運行。直方駅から行橋までの42kmを3時間20分かけて日本一ゆったりと走る。その間振る舞われる地元の食材を盛り込んだ福山剛シェフ監修のフランス料理6品と、沿線の長閑な景色を眺める極めて贅沢な時間を過ごせる。チケットは秋まで満席。田川伊田駅には約15分停車するようだ。



駅舎のリノベーションの設計にあたったのは、リノベーションオブサイヤークランプリ受賞者の田村晟一朗氏。元々ここは石炭の積み出しのための駅だったことを受け、壁が黒に塗り替えられた。



展望デッキ:車窓がイメージされた展望デッキからは、明治時代を支えた旧三井田川鉱業所伊田壁坑槍と2本の煙突が見える。



駅ナカサロンSHIRO(3階):駅舎内に設けられた会議室などの「人が集う」スペース。真っ白からの発想を大切にしたいとネーミングされた。



寝台駅舎「浪漫号」(2階):日本で線路が一番近いであろう宿。寝台列車をイメージした仕上がり。開店に向けて準備中。



MACHI-I(待合室1階):ゆったりとした空間はWi-Fi完備、授乳室完備。今後、イトインになり図書も置かれる予定。

## 【注目建築】

# 北九州市立 子ども図書館

磯崎新氏の建築的特徴を活かし  
40年の時を経て誕生した子ども図書館



●所在地 / 北九州市小倉北区城内4番1号  
●電話 / 093-571-0011  
●建築設計監理 / 株式会社インザキ・アオキ アンド アンソエイツ

昨年12月に開館した北九州市立子ども図書館。元々西端にあった視聴覚センターの低い天井や耐震壁で仕切られ並んだ小部屋を全て取り払い、新たに平網で構成された耐震壁に置き換え全面改修された。完成したゆったりとした閲覧空間や組み合わせが自由なデスク、子ども連れで利用しやすいエレベーター等を含め、約40年前に竣工した

オリジナルの建築的特徴を活かしながら、利用ニーズに耐え得るようになり、居心地の良い空間に仕上がっている。

この図書館では貸出日や本のタイトル等、借りた本の履歴を残すことのできる「読書通帳」が導入され、子どもの夢を育てる本の基地になっているようだ。



絵本とおはなしの部屋(地下1階):寛ごろびスペースと屋外の子どもひろばを一体として利用できる。



私たちのまちの児童文学コーナー(1階):北九州市にゆかりの児童文学者とその作品を紹介。



児童書・小説・図鑑類の閲覧室(1階):天井が取り払われむき出しになった鉄骨はまるで「ジャックと豆の木」のよう。



空調:壁や天井を取り払った事で登場した空調機。誰も気付かないほどマッチしている。

耐震壁:平網で構成された耐震壁はガラスでサンドイッチされている。



エントランス(地下1階):勝山公園側。屋外には寄付されたオブジェが設置され来館者を迎えている。



児童図書研究室・学習室(2階):市内の子どもの様々な意見を反映した、ゆったりとくつろげる、開放的な図書館。